【別紙様式 1】

# 令和４年度　東北大学における教育研究活動等の質保証に関する報告書

**※令和３年度の取組状況について記載してください。**

## １　基本単位

（1）基本単位（原則として、教育研究上の基本組織）の名称と責任者

| 基本単位の名称 |
|---|
| 薬学部、岩渕好治（薬学部長） |

（2）基本単位に置かれた教育課程一覧（※上記（1）において基本単位を「教育課程」に設定している場合は記載不要）

| 教育課程 |
|---|
| 創薬科学科、薬学科 |

（3）教育課程における評価の内容の根拠等

| 教育課程 | 評価の内容の根拠等 |
|---|---|
| 創薬科学科（全学教育科目、専門教育科目）<br>薬学科（全学教育科目、専門教育科目） | 学生便覧、シラバス、期末試験（筆記試験、レポート等）、パフォーマンステスト（実務実習、卒業研究）、ポートフォリオ（実習科目）、日常の観察（卒業研究等）、東北大学薬学部規程（1972.5.24），東北大学薬学部履修内規（2005.11.16），薬学部専門教育科目の成績評価等に関する申し合せ（2006.3.3）、「第４回　東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」（令和３年度実施） |

## ２　「教育の質保証検証部会」からの精査結果への対応（必要に応じて行を増やして記載してください。）

| 事項（No.） | 精査結果に対する今後の対応（予定を含む） |
|---|---|
| 1 | 「全学部・研究科・課程に対する全般的事項」に関して、薬学部の３ポリシー、カリキュラムマップ等について、学生便覧及び HP にも掲載している。 |
| 2 | 「国公立大学６年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケートを実施（2020 年５月）した。<br>就職先等からの意見聴取については、令和３年度実施予定として検討する。」☞“国公立大学６年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケート（2020 年５月実施）で聴取した意見等を部局の教育研究活動等の改善に反映させてくださいますようよろしくお願いいたします。”→「一方、令和２年度の意見聴取に基づいて、実務実習の実施体制・方法の改善施策の検討を継続している。」と反映しておりましたが、加筆して、「一方、国公立大学６年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケートの結果をうけ、実務実習の実施体制・方法の改善施策の検討を継続している。さらに令和３年度には「国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ」をオンラインで共同開催（2021.9.25）し、その中で「キャリア形成ワークショップ」として社 |

| | |
|---|---|
| | 会で活躍する薬学博士人材・薬学博士人材の在り方を卒業生・在校生・教員間で意見交換する機会を設けた。」といたしました。就職先等からの意見聴取については令和３年度実施する準備として、過去５年間の就職先と就職人数を整理したところ、学部卒・大学院修了生合わせて３名以上就職している企業が 26 社（10 名以上では４社）であった。運営会議で議論した結果、令和３年度の意見聴取実施を見送り、令和４年度以降の実施を検討することとした。 |
| 3 | 大学院事項のため、該当しない |
| 6 | 「本項目記載の評価方法により得られた意見等」に関して、例えば、施設設備については、「どのような状況下（コロナ禍など）においても、質の高い遠隔教育や、自立型の予習・復習を可能とする効率的な個別学習等の充実・確保に向けて取り組んだ。なお、大講義室および C 棟講義室にハイフレックス講義対応のための設備を検討し、導入した。令和４年度に中講義室に同様の設備を導入する計画とした。」として反映しました。 |
| 7 | FD 参加者数<br>「ハラスメント防止対策講習会」72 名、　「令和２年度情報セキュリティ・個人情報保護教育」110 名、<br>「令和２年度研究費不正使用防止コンプライアンス教育」124 名、　「新型コロナ E-learning」106 名 |

## ３　三つのポリシーについて

（1）基本単位（教育課程）が設定する三つのポリシー

| | |
|---|---|
| 学位授与方針 | <u>創薬科学科</u><br>薬学部創薬科学科では、卒業までに全学教育科目および専門教育科目を所定の単位以上修得し、教育理念に基づく以下の４つの目標を達成した学生に対し、学士（創薬科学）の学位を授与する。<br>(1)教養の涵養：専門の基礎となる自然科学分野のみならず幅広い教養を習得し、豊かな人間性と倫理観を備えるとともに、地域・社会に貢献する使命感をもち、優れたリーダーシップを発揮する能力を有している。<br>(2)専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製する能力、および医薬品に関する基礎的な学問を学び創薬科学の発展に寄与しうる能力を有している。<br>(3)国際感覚の鍛錬：総合的な英語力、コミュニケーション力、および国際感覚を習得し、成果を世界に発信する能力を有している。<br>(4)真理の探究：化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、新しい医薬品開発、および薬の適正使用に携わる研究、教育、衛生行政を支える研究心を備えている。<br><br><u>薬学科</u><br>薬学部薬学科では、卒業までに全学教育科目および専門教育科目を所定の単位以上修得し、教育理念に基づく以下の４つの目標を達成した学生に対し、学士（薬学）の学位を授与する。<br>(1)教養の涵養：薬学の基礎となる自然科学分野のみならず、幅広い教養を習得し豊かな人間性と倫理観を備えるとともに、地域・社会に貢献する使命感、優れたリーダーシップを発揮する能力を有している。<br>(2)専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を理解し、有効かつ安全な医薬品を創製する能力及び薬の専門家として医療を実践する能力を有している。<br>(3)国際感覚の鍛錬：総合的な英語力、コミュニケーション力及び国際感覚を習得し、成果を世界に発信する能力を有している。<br>(4)真理の探究：化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を備えている。 |

| | |
|---|---|
| 教育課程方針 | <u>創薬科学科</u><br>１．教育課程の編成の方針<br>　創薬科学科の教育課程は、ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の修養」、「国際感覚の鍛錬」および「真理の探究」の各学習目標を達成するため、全学教育科目、専門教育科目（基幹教育科目、展開教育科目、および研究者教育科目）および教職に関する科目から編成する。各科目で習得される知識、技能、態度および能力を明示したシラバスと、各科目および薬学教育モデルコアカリキュラムとの関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。<br>２．教育課程における教育・学習方法に関する方針<br>(1)教養の涵養：１年次および２年次において、基幹科目、展開科目（自然科学)、共通科目（外国語)、展開科目（人文科学、社会科学）を配置し、豊かな人間性と優れたリーダーシップを身につけるための教養を身につける。<br>(2)専門の修養：１年次から４年次にカリキュラムマップに配置された、物理系科目、化学系科目、生物学系科目、衛生系科目、薬理学系科目、薬剤学系科目および法規科目を講義、演習、実習を通して、生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製および医薬品の基礎に関する学問を体系的に学び、創薬科学の発展に寄与しうる人となる素養を身につける。<br>(3)国際感覚の鍛錬：薬学総合科目（薬学概論１、薬学概論２、専門薬科学実習、課題研究）を通して、高い英語の理解力のみならず国際的に発信し、コミュニケーションをはかるための総合的な英語力と国際感覚を身につける。<br>(4)真理の探究：３年次後期から４年次に研究室配属となり、研究者教育科目を通して、化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、新しい医薬品開発、および薬の適正使用に携わる研究、教育、衛生行政を支える研究心を身につける。<br>３．学習成果の評価の方針<br>(1)科目については、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。<br>(2)卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し、評価する。<br>(3)教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。<br><br><u>薬学科</u><br>１．教育課程の編成の方針<br>　薬学科の教育課程は、ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の修養」、「国際感覚の鍛錬」及び「真理の探究」の各学習目標を達成するため、全学教育科目、専門教育科目（基幹教育科目、発展教育科目、実務教育科目及び研究者教育科目）及び教職に関する科目から編成する。各科目で習得される知識、技能、態度及び能力を明示したシラバスと、各科目及び薬学教育モデルコアカリキュラムとの関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。<br>２．教育課程における教育・学習方法に関する方針<br>(1)教養の涵養：１年次および２年次において、基幹科目、展開科目（自然科学)、共通科目（外国語)、展開科目（人文科学、社会科学）を配置し、豊かな人間性と優れたリーダーシップを身につけるための教養を身につける。<br>(2)専門の修養：１年次から６年次にカリキュラムマップに配置された、物理系科目、化学系科目、生物系科目、衛生系科目、薬理学系科目、薬剤学系科目、病態・薬物治療系科目、法規科目、薬学臨床科目を講義、演習、実習を通して、生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製および薬物治療に関する基礎的な学問を体系的に学び、薬学の発展に寄与しうる人および薬の専門家として医療の中で貢献できる人となれる素養を身につ |

| | |
|---|---|
| | ける。<br>(3)国際感覚の鍛錬：薬学総合科目（薬学概論１、薬学概論２、臨床コミュニケーション学、薬学英語、課題研究）を通して、高い英語の理解力のみならず国際的に発信し、コミュニケーションをはかるための総合的な英語力と国際感覚を身につける。<br>(4)真理の探究：３年次後期から６年次に研究室配属となり、研究者教育科目を通して、化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を身につける。<br>３．学習成果の評価の方針<br>(1)科目については、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。<br>(2)卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し、評価する。<br>(3)教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。 |
| 学生受入方針 | 薬学とは物質と生命の関わりを調べて新しい薬を創り出し、その医療への適用により健康の維持・増進や病気の治療を通じて人類社会の発展に貢献しようとする学問です。<br>薬学部では、有機化学と物理化学を基礎とする物質科学、生物化学と分子生物学を基礎とする生命科学、そして疾病の解析や薬物治療などから成る医療科学の３つを総合した教育と研究を行います。大学院での教育研究とあわせて、国際的な視野に立ち創薬科学の発展に寄与し得る人と、薬に関する高度な知識と倫理観を有し、適正な医薬品治療の実践と発展にリーダーシップを発揮し得る人を育成することを目的としています。<br>知的探求心に溢れ、新しい薬の創製に関する研究・開発に強い興味をもつ人、あるいは薬の安全で最適な使用に強い意欲をもつ人、薬を通じて人類の健康増進に貢献したいという強い使命感に燃える人を求めています。<br><br>ＡＯ入試Ⅲ期：<br>学業成績が極めて優れ、かつ、東北大学で薬学を学ぶことに強い熱意を持ち、知的探究心に溢れ、創薬研究あるいは薬の専門家として医療の中で使命感を持ってリーダーシップを発揮できる人間性の豊かな人を求めています。大学入学共通テストの成績に加え、書類審査、面接試験によって、薬学・医療に関わる学問への関心、探究心、思考力、倫理観などを評価します。<br><br>国際バカロレア入試：<br>国際バカロレアのディプロマ・プログラムにおいて優秀な成績を修めた者で、薬学を学ぶことに強い熱意を持ち、知的探究心に溢れ、創薬研究あるいは医療の中で使命感を持ってリーダーシップを発揮できる人間性の豊かな人を求めています。書類審査、面接試験によって、薬学・医療に関わる学問への関心、探究心、思考力、倫理観などを評価します。 |

(2) ポリシーの整備・活用状況

| 観　　点 | | 根　拠　等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います） |
|---|---|---|
| 1 | 教育課程方針における、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針の明示 | 教育課程方針では、①教育課程の編成の方針として、ディプロマポリシーに掲げた「教養の涵養」、「専門の修養」、「国際感覚の鍛錬」および「真理の探究」の各学習目標を達成するため、それぞれの学科に配置した科目を編成すること、そして各科目で習得される知識、技能、態度およ |

| | | |
|---|---|---|
| | | び能力を明示したシラバス、そして各科目の関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促すことを明示している。②教育課程における教育・学習方法に関する方針として、４つの学習目標について、それぞれ教育・学習方法を明示している。③学習成果の評価の方針として、(1)科目については到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価すること、(2)卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し評価すること、(3)教育課程を学生の評価も含めて組織的かつ定期的な評価を実施し常に改善を続けることとして明示している。これらは新入生オリエンテーション、学生便覧、部局ホームページ(http://www.pharm.tohoku.ac.jp/general/faculty_policy/)を通じて周知している。 |
| 2 | 学位授与方針と大学の目的との整合性 | “豊かな教養と人間性を持ち、人間・社会や自然の事象に対して「科学する心」を持って知的探究を行うような行動力のある人材、国際的視野に立ち多様な分野で専門性を発揮して指導的・中核的役割を果たす人材を養成する”と整合した学位授与方針である。 |
| 3 | 教育課程方針と学位授与方針との整合性 | 学位授与方針においては教育理念に基づく４つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」を規定し、それを受けて、教育課程方針において４つの学習目標を掲げ、これらの目標を達成できるようにカリキュラムを編成している。従って、教育課程方針と学位授与方針は整合性を有している。 |
| 4 | 教育課程の編成の体系性 | 創薬科学科においては１年次から４年次、薬学科においては１年次から６年次に開講する科目の体系性を４つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」ごとに定め、それぞれの学科におけるカリキュラムマッピングとしてシラバスに明示している。 |
| 5 | 学習成果の達成が授与する学位に相応しい水準か | 学部教育の目的は、種々の病気に対する有効かつ安全な新規医薬品の創製とその薬物治療への応用に関する基礎教育を推進することにより、創薬科学の発展に寄与し得る人材と、薬の専門家として医療の一翼を担い得る人材を養成することとし、特に４年制の創薬科学科では、大学院でさらに学んで創薬科学の研究者・技術者になるための基礎を築くことを目指す。６年制の薬学科では、研究心あふれる高度薬剤師としての基盤形成を行っている。この目的を達成するための３ポリシーを設定した。学位授与方針の中で、学習成果の達成と学位授与との関係について明確とし、創薬科学科においては「薬学部創薬科学科では、卒業までに全学教育および専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の４つの目標を達成した学生に対し、学士（創薬科学）の学位を授与します。」、薬学科においては「薬学部薬学科では、卒業までに全学教育及び専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の４つの目標を達成した学生に対し、学士（薬学）の学位を授与します。」としている。核となる４つの目標、すなわち教養の涵養、専門の修養、国際感覚の鍛錬、真理の探究を達成することは、それぞれの学位に相応しい水準である。 |
| 6 | 学位授与方針や教育課程方針に即した成績評価基準の策定及びそれを用いて厳格かつ客観的な成績評価や単位認定の実施 | 成績評価基準は薬学部履修内規に定められ、各科目の成績評価法はシラバスで学生に周知する。総括評価としての筆記試験は定期試験と追再試験とし、科目によりレポート等の成績を加味 |

| | | |
|---|---|---|
| | | した総合評価を 100 点とし、60 点以上取得した場合に合格とする。100 点満点を配当とする評価を、段階的評価（AA、A、B、C、D）に読み替えることがあり、59 点以下の D は成績を不可とする。実習科目など授業科目によっては、合格、不合格とすることがある。専門教育科目の再試験に合格したものの成績の評価は C とする。教務係により各科目担当教員からの評価が集計され、学部教務委員会、薬学部教員会議、薬学部教授会の審議を経て単位認定が行われる。以上のとおり、成績評価基準に基づき厳格かつ客観的な成績評価および単位認定が実施されている。 |
| 7 | 学位授与方針に即した卒業又は修了の要件の策定 | 東北大学薬学部規程 20 条に創薬科学科卒業要件として、全学教育科目の授業科目の単位を 42 単位以上及び専門教育科目の単位を 100 単位（基幹教育科目 66 単位、展開教育科目 14 単位及び研究者教育科目 20 単位）以上修得しなければならないと定めている。また、同規定 21 条に薬学科卒業要件として、全学教育科目の授業科目の単位を 42 単位以上及び専門教育科目の単位を 160 単位（基幹教育科目 66 単位、発展教育科目 45 単位、実務教育科目 27 単位及び研究者教育科目 22 単位）以上修得しなければならないと定めている。これらの科目は、学位授与方針に定める４つの目標（教養の涵養、専門の涵養、国際感覚の鍛錬、真理の探究）に対応して系統的にカリキュラムマッピングされているものである。これより、学位授与方針に即した卒業要件が策定されている。 |
| 8 | 卒業（修了）時の学生からの意見聴取や就職先等からの意見聴取による学位授与方針に即した学修成果の修得状況 | 卒業（修了）時の学生からの意見聴取や就職先等からの意見聴取の方法として、従来の手紙等に加えてオンラインツール（例えばグーグルフォーム）を活用し、記名・無記名の方法によって実施するとしている。令和２年度においては、意見聴取を行ったことから、令和３年度においては卒業時の学生や就職先等からの意見聴取は行わなかった。一方、国公立大学６年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケートの結果をうけ、実務実習の実施体制・方法の改善施策の検討を継続している。さらに令和 3 年度には「国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ」をオンラインで共同開催（2021.9.25）し、その中で「キャリア形成ワークショップ」として社会で活躍する薬学博士人材・薬学博士人材の在り方を卒業生・在校生・教員間で意見交換する機会を設けた。高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センターによる「第４回東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」で聴取された内容から専門分野に関する知識・技能の修得は十分である一方専門分野以外の幅広い教養の修得があまりないと回答した卒業生が 30%程度であった。学位授与方針にある「教養の涵養」を高めるため、低学年における履修指導を検討することとした。 |
| 9 | 学生受入方針への「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方の明示 | 学生受入方針において、求める学生像を「知的探求心に溢れ、新しい薬の創製に関する研究・開発に強い興味をもつ人、あるいは薬の安全で最適な使用に強い意欲をもつ人、薬を通じて人類の健康増進に貢献したいという強い使命感に燃える人を求めています。」とし、そして入学者選抜の基本方針として求める学生像を選抜するために、AO 入試Ⅲ選抜並びに国際バカロレア入試を実施することを明示している。 |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 学生受入方針に沿った、受入方法の採用、実施体制による公正な入学者選抜の実施 | 学生受入方針に沿って、一般選抜（前期 56 名）、AO 入試Ⅲ期（24 名）、国際バカロレア入試（若干名）、私費外国人留学生入試（若干名）を採用している。一般入学試験においては、大学入学共通テストと東北大学独自の試験により判定しているが、大学入学共通テストの配点に比して東北大学独自の試験の配点を高くし、暗記能力だけでなく、その応用力を評価している。AO入試Ⅲ期は大学入学共通テストの成績と面接諮問により選抜される。合格者の決定は、専任教授からなる選抜検討会議の議を経て、運営会議で最終決定される<br>学部入学試験実施部は、学部長を責任者として、総括担当副責任者、総括担当副責任者補佐２名、問題冊子等担当副責任者、支援業務担当副責任者で構成する。 |
| 11 | 学生受入方針に沿った学生の受入の検証、検証結果の入学者選抜の改善への利用 | 教授懇談会において、学生の受入について点検・見直しを行うため、WG を令和 2 年度に設置しており（WG：学部教務委員長、研究科教務委員長、創薬科学科長、薬学科長、分子薬科学専攻長、生命薬科学専攻長、医療薬学専攻長）、学生受入方針に沿った学生受入の検証を継続した。<br>新型コロナウイルス感染症への対応の一環で AO 入試Ⅲ期の試験実施について検討し、[redacted]により選考するとした。バカロレア試験については、志願者の有無が判明してから検討するとしたが、志願者は出なかった。<br>国際バカロレア入試の実施方法の改訂に関して[redacted]について教授懇談会において議論し、今回は変更しないとした。また改定案については継続して議論するとした。なお、入試時期に関して、AO Ⅱ期との同時期に変更する案については困難とした。令和 7 年度入学者に対する「情報」の取扱いを学生受入方針の観点から検討し、特に配点について議論を継続するとした。<br>学部教員会議において進級率・留年率を検討し、学生受入が適正であると判断した。 |
| 12 | 実入学者数の入学定員に対する比率 | 令和３年度の定員 80 名に対して、一般選抜 60 名、AO 入試Ⅲ期 24 名、私費外国人 0 名であり、充足率は 105％である。 |

## 4　学生支援について

| 観　　点 | | 根　拠　等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います） |
|---|---|---|
| 1 | 学生に対する、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援の状況 | 学生相談担当教員（男女各１名）のほか、クラス担任や分野（指導）教員、教務委員長及び教務係で対応する。相談窓口等については学生便覧に掲載しており、オリエンテーション等でも周知している。<br>特に令和３年度についても新型コロナの影響で多くがオンライン授業を併用した。ピアサポーターや教員によりメンタル面にも注意しながらサポートを行った。移動に伴う感染症拡大抑制の観点から、緊急事態宣言下の地域から帰仙した場合、１週間の自宅待機とすることとしてホーム |

| | | |
|---|---|---|
| | | ページや担任等を通じて周知した。感染防止対策については、講義の際に具体的な項目を挙げ、注意喚起することで行った。<br>令和３年度の入学者オリエンテーションおよび学科ガイダンスについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環で１学年を複数の教室に分けて開催し、薬学教育の全体のカリキュラムを俯瞰できるように説明するとともに、生活や進路、課外活動、経済面での援助制度についての情報提供を行った。合宿形式での新入生歓迎行事については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため実施は困難であると判断し、開催を中止した。また入学者オリエンテーション終了後に、新入生を３～５名ずつ各研究室に分かれて、教員、学生、大学院生と交流を持つ機会を中止し、新入生サポート学生によるオンライン交流会とした。<br>１セメスターに開講する「薬学概論１」は、オンデマンドとして開講した。薬学部で行われている研究概要や進路等について各担当教授から説明することによりキャリアパスを俯瞰できるような導入科目とし、個別の学生からの相談に対して助言した。<br>３年次後期からの学科配属に際して、薬学科を志望する学生全員と面談し、薬学教育モデル・コアカリキュラムの意味、薬剤師国家試験に向けての意欲、卒業後の進路等の疑問・不安に対応した。<br>学部通則第 34 条において授業料免除等を定め、東北大学学生生活案内、学生便覧でも周知している。学生の経済的支援に関して、授業料免除、日本学生支援機構等の奨学金制度についての情報は学生便覧およびホームページで周知する他、教務係から学生に情報提供され、個別に支援を行っている。 |
| 2 | 留学生への生活支援等を行う体制及び生活支援の状況 | 主に分野（指導）教員、チューター及び教務係が連携しながら、奨学金等の情報提供、ユニバーシティハウスや民間アパートへの入居支援、在留資格更新等の手続支援を行っている。令和３年度については、新型コロナの影響で来日できていない学生もおり、授業料等の納付方法や COE の更新情報などきめ細かく支援等を行った。 |
| 3 | 障害のある学生その他特別な支援が必要な学生への生活支援等の体制及び生活支援の状況 | 教務係や教務委員会、相談員や担任などが全学の教務課や特別支援室などと連携を取り、逐一対応ができるようになっている。<br>担当する組織等：研究科教務委員会、学部教務委員会、学生支援委員会 |
| 4 | 学生に対する経済面での援助 | 上記の通り、学部通則第 34 条において授業料免除等を定め、東北大学学生生活案内、学生便覧でも周知している。学生の経済的支援に関して、授業料免除、日本学生支援機構等の奨学金制度についての情報は学生便覧およびホームページでの周知、各学年のグーグルクラスルーム他、教務係から学生に情報提供され、個別に支援を行っている。これにより、令和３年度において、授業料免除者は、前後期延べ人数で 88 名（全免 63 名、半免 14 名、2/3 免除 6 名、1/3 免除 5 名）、学生支援機構奨学金受領者 126 名となっている。 |

## ５　教育・学生支援に関する施設設備について

| 観　　点 | | 根　拠　等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います） |
|---|---|---|
| 1 | 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備の整備状況 | １～４セメスターに行われる全学教育ならびに１～３セメスターの専門教育は川内北キャンパスで行われており、必要な施設・設備は適切に整備されている。専門科目の講義は主に青葉山地区の薬学研究科・薬学部の施設で行われる。薬学部 A 棟は昭和 44 年に、B 棟は昭和 47 年に建設され、平成 8-9 年に内部改修が行われた。平成 15 年に総合応用薬学研究棟（C 棟）が建設された。薬学部には、1 学年の学生を収容できる大講義室（156 席）、中講義室（104 席）、C 棟講義室（138 席）があり、さらに少人数教育として利用できる第１小講義室（48 席）、第２小講義室（32 席）、第一セミナー室（18 席）、C 棟セミナー室がある。その他、B 棟学生実習室、C 棟学生実習室、情報教育室、第３実習室（模擬薬局）、実験動物飼育管理施設、附属薬用植物園を設備する。なお大講義室および C 棟講義室にハイフレックス講義対応のための設備を検討し導入した。令和４年度に中講義室に同様の設備を導入する計画とした。令和３年４月に附属薬用植物園のホームページをリニューアルし、コンテンツの充実化を図った。令和４年１月に薬用植物園周辺に出没する野生動物から標本・資料を保護する目的で薬用植物園内に電気柵を設置した。<br>卒業研究は、各分野で実施するが、各研究に必要な機器等は指導教員の個々が競争的資金を得て整備している。また中央機器室、生体分子解析室、ハイスループット・スクリーニング室、低温室等がある。<br>図書および学習資料は、川内北キャンパスにある東北大学附属図書館本館並びに青葉山キャンパスにある北青葉山図書館を主に利用している状況である。 |
| 2 | 施設・設備における安全性の配慮の状況 | 薬学研究科・薬学部安全衛生委員会委員（委員長は研究科長・事業場責任者、副委員長は環境管理委員長、委員として分子薬科学専攻長、医療薬学専攻長、生命薬科学専攻長、安全・衛生管理者、用度係長、産業医）が定期的に巡視・インタビューすることにより、施設・設備の状況を把握するとともに、必要に応じて改善点を指摘し、改善前後の状態・効果・評価結果をフィードバックすることにより、安全性の確保を行う体制とて取り組んだ。 |
| 3 | 教育研究活動を展開する上で必要なＩＣＴ環境の整備状況及び有効活用の状況 | 無線 LAN などの高速ネットワーク環境やクラウド環境、さらに Google Classroom や Google Meet 等を含めたＩＣＴ環境・学習ツールを整備・浸透させ、全ての授業に対して、これらの環境・ツールを駆使したオンライン授業やオンデマンド授業、e ラーニングを利活用することで、どのような状況下（コロナ禍など）においても、質の高い遠隔教育や、自立型の予習・復習を可能とする効率的な個別学習等の充実・確保に向けて取り組んだ。なお、大講義室および C 棟講義室にハイフレックス講義対応のための設備を検討し、導入した。令和４年度に中講義室に同様の設備を導入する計画とした。 |

## ６　基本単位における「教育研究活動の実施状況とその成果」の自己点検・評価について

| 実施<br>時期 | 評価対象 | 評価方法<br>（授業評価、学生調査、学生懇談会等） | 評価結果とそれへの対応（計画を含む） |
|---|---|---|---|
| | 教育課程 | | |
| 2021.4-6 | | 授業評価：授業アンケート（前年度）結果の集計・報告書の作成 | 学生から寄せられたフリーコメントに対する担当教員のコメント・改善計画案の内容を学部教務委員会で検討し、承認した。同資料を運営会議で確認した。次いで同資料を薬学部教員会議で確認した。承認された授業アンケート結果は、ホームページに掲載された。前年度の学生からの授業評価を継続的に授業の改善活動に利用している。 |
| 2021.5 | | 新しく着任する教員が担当する科目等の調整 | 7/1 に着任する教員が 10 月以降で担当する科目・担当内容（SBOs など）について、専攻長と教務委員長を中心に具体的に検討することを教授懇談会で承認し、教務委員会等に諮りながら進めた。 |
| 2021.7 | | 授業評価：授業アンケート（前期）依頼、集計、授業アンケート結果を担当教員へ送付する。授業アンケート結果をもとに担当教員がコメント・改善計画を作成し教務へ送付 | 学生に対する授業アンケートの項目や実施方法を学部教務委員会で検討し、各科目のグーグルクラスルームに配置した専用のグーグルフォームを用いて実施することを教務係から科目担当教員に依頼した。学生からの回答は教務係が集計し、その結果を各担当教員に送付し、コメント・改善計画の作成を依頼した。担当教員の作成したコメント・改善計画は教務係に期限までに送付され集計された。 |
| 2021.9 | | 後期時間割の提案、確認、作成 | 教務係から提案された後期時間割を各担当教員が確認した後、作成され、学部教務委員会、薬学部教員会議の議を経て定められた。 |
| 2021.9 | | 全学科目と専門科目の担当についての検討 | 担当する教員の退職を契機として、全学科目と専門科目の担当に関する問題点の洗い出し、解決策を提案するためのワーキンググループを編成し、検討を開始した。 |
| 2021.10 | | 県外からの非常勤講師の授業形態について | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、県外からの非常勤講師による対面講義を制限していたが、教授懇談会で検討し、BCP レベル１においては対面授業も可能とすることとした。 |
| 2022.1 | | 授業評価：授業アンケート（後期）依頼、集計、授業アンケート結果を担当教員へ送付する。授業アンケート結果をもとに | 学生に対する授業アンケートの項目や実施方法を学部教務委員会で検討し、各科目のグーグルクラスルームに配置した専用のグーグルフォームを用いて実施することを教務係から科目担当教員に依頼した。学生からの回答は教務係が集計し、その結果を各担当教員に送付し、コメント・改善計画の作成を依頼した。担当教員の作成したコメント・改善計画は教務係に期限までに送付され集計された。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 担当教員がコメント・改善計画を作成し教務へ送付 | |
| | 学習成果 | | |
| 2021.7 | | 2021 年度創薬科学科４年次英語での研究内容発表会優秀発表賞（学生同士による評価） | 3 年次後期から各専門分野に配属され、課題研究に取り組み中で、自らの研究内容を英語で発表し、質疑・応答する機会を作り、英語の運用能力の醸成に繋げている。なお、薬学科においては、正規科目である「薬学英語」の中で同様の機会を設けている。 |
| 2021.12-<br>2022.1 | | 第４回東北大学の教育に関する卒業・修了者調査（2012, 2016, 2020 年度の卒業・修了生）Google Form によるオンライン調査 | ディプロマポリシーに掲げる４つの要素「教養の涵養」、「専門の修養」、「真理の探究」、「国際感覚の鍛錬」に関する学生の自己評価の結果、アンケート回答時点における専門分野以外の幅広い教養についての自己評価として「ある、あるいは少しある」としたのが 60%ほどであった。これの知識や能力を獲得する上での東北大学における経験の貢献度が「ある、あるいは少しある」としたのは 70%であった。これより「教養の涵養」は卒業・修了生に評価されていると考えられるが、引き続き学習方略を工夫するなど改善点を検討する。一方、「国際感覚の鍛錬」に関連する初修外国語で学んだ言語の運用能力については、80%ほどの卒業・修了生で「あまりない、あるいはない」と回答した。これに対応する東北大学における貢献度も 70%で「あまりない、ない」としていた。学部教育においては、英語によるプレゼンテーション能力の向上に取り組んでいるところであり、優秀発表者を学生自身の投票により選び、学部長から表彰を受ける事業を行っているが、更なる工夫改善を検討することとした。社会人学生から、社会人学生に対する情報提供のあり方について改善要望があった。常に学内で活動する学生との情報格差を感じている。現在は、掲示板中心ではなく、Google Classroom を利用した情報提供に切り替わっているが、更なる工夫を検討したい。 |
| | 施設設備 | | |
| 2021.1 | | ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人人材養成事業（高機能患者シミュテータ）への応募 | 新型コロナウイルス感染症への感染リスクを大幅に減らしながら高度な医療薬学実習を継続するために、運営会議で議論し、文部科学省の補正予算として申請し、令和 4 年度に導入することが決まった。 |
| 2022.3 | | 講義室におけるハイフレックス講義用機器の整備（大講義室・C 棟講義室） | ICT 環境の充実のため、大講義室と C 棟講義室だけで運用している Eduroam 環境を B 棟講義室等でも使用可能とすることを教授懇談会で議論し、進める方針とした。 |
| | 学生支援 | | |
| 2021.5 | | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策 | 薬学部学生においても新型コロナウイルスへの感染が確認されたことから、教授懇談会において、講 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | （教授懇談会、教務委員会、運営会議） | 義中における注意喚起やホームページ等による学生へのメッセージを検討し、実施した。併せて、感染した学生に対するフォロー方法を確認した。 |
| 2021.8 | | 薬学科志望学生（3 年次）との面談（学部教務委員長、薬学科長） | 20 分間の面談を通じて、薬学科進学後の疑問・不安（薬学教育モデル・コアカリキュラムの意味、薬剤師国家試験に向けての意欲、卒業後の進路等）に対して個別に助言するとともに、面談概要を翌月の学部教務委員会（2021.9）および教授懇談会で情報共有し、必要に応じて継続的に面談を行うこととした。 |
| | 学生受入 | | |
| 2021.6-<br>2021.9 | | バカロレア入試の出願要件について | 東北大学入試説明会において高校側より東北大学の国際バカロレア入試の出願要件とする総合成績の点数を令和５年度入試に向けて再検討することの依頼に基づき、入試企画・広報委員会から「総合成績 36 点以上を設定する学部」に対して見直しの検討依頼があり、教授懇談会で検討した。今後、点数分布等の情報収集、他学部の状況等を見ながら検討していくこととした。 |
| 2021.7 | | 学部入試（AO 入試Ⅲ期および国際バカロレア入試）の日程変更について（教授懇談会、学部教務委員会、学部教授会） | AO 入試Ⅲ期、国際バカロレア入試（法・薬）の出願期間を 1 月 20 日（木）～24 日（月）に変更すること、一般選抜の出願期間を 2 月 4 日（金）17 時まで延長すること、ＡＯ入試Ⅲ期等の成績請求オンラインが 2 月 7 日（月）になること、そしてＡＯ入試Ⅲ期が 2 月 12 日（土）への変更を検討し、教授会等で承認した。 |
| 2021.9 | | 薬学研究科概要の掲載内容の見直し | 2021.4 現在の研究科概要の内容を教授懇談会において確認した。 |
| 2021.9 | | 令和 5 年度入学者選抜方針および私費外国人留学生入試の検討 | 令和 5 年度入学者選抜方針および私費外国人留学生入試の内容を教授懇談会において確認した。 |
| 2021.11 | | AO 入試等の面接員について（教授懇談会） | AO 入試方法を再確認するとともに、[redacted]、新型コロナウイルス感染など不測の事態に対応できるよう実施体制を検討した。 |
| | その他 | | |
| 2021.5 | | 3 ポリシーの内容確認 | 学部教務委員長・創薬科学科長・薬学科長、および大学院教務委員長・分子薬科学専攻長・生命薬科学専攻長・医療薬学専攻長によるワーキンググループ（2020 年度に編成）により３ポリシーの確認を行った。 |

## ７　ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）・スタッフ・ディベロップメント（ＳＤ）の実施状況

| FD･SD の別 | 実施時期 | 名称 | 主催 | 実施内容・方法 | 対象者 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| FD/SD | 2021.6.1 | 研究倫理教育教材の動画配信 | 研究推進コンプライアンス推進室 | これからの研究推進を考える/オンデマンド | 教職員 | |
| FD/SD | 2021.9.7 | 2021 年度後期の授業に向けたオンライン授業環境説明会および ISTU/DC システム説明会 | オンライン教育支援室 | 利用可能なオンライン授業環境について等/オンライン | 教職員 | |
| FD/SD | 2021.11.19 | 令和３年度研究倫理教育 FD | 研究推進コンプライアンス推進室 | 教育に関する倫理について・オンライン/オンデマンド | 薬学研究科職員 | |
| FD/SD | 2021.12.1 | ハラスメント防止対策 FD | 薬学研究科 | ハラスメントについて動画で学ぶ・オンデマンド＋確認テスト | 薬学研究科職員 | 全員 |
| FD/SD | 2022.1.12 | ISTU／DC 利用について | 薬学研究科 | 新 ISTU について・集合 | 薬学研究科職員 | 全員 |
| FD/SD | 2022.1.21 | 研究倫理に関する FD | 薬学研究科 | 公正な研究活動について／研究データマネジメントについて・オンデマンド＋確認テスト | 薬学研究科職員博士研究員／大学院性 | 全員 |
| FD/SD | 2022.2.2 | 最終年次学生への研究倫理教育 | 薬学研究科 | 科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー/オンデマンド | 薬学研究科学生・院生 | 全員 |
| FD/SD | 2022.3.8 | 令和３年度研究倫理教育 FD | 研究推進コンプライアンス推進室 | 科学研究におけるデータ共有について・オンライン/オンデマンド | 教職員 | |

## ８　特に整備（対応）をお願いしたい事項について

| 番号 | 事　　項 | 整備（対応）の有無<br>（該当するものを○で囲んでください。） | 活用（対応）状況<br>（学位便覧に掲載、オリエンテーションで説明等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 「第５回　東北大学の教育と学修成果に関する調査」（令和２年度実施）の自由記述欄への対応 | 有　　無<br><br>→有の場合、添付してください | 運営会議において、「令和　4　年度東北大学における教育研究活動等の質保証に関する報告書」として、当該アンケートの自由記述の内容を確認し、対応する委員会等で対応案を検討するよう依頼した。 |
| 2 | 「第 15 回　東北大学学生生活調査」（令和３年度実施）の自由記述欄への対応 | 有　　無<br><br>→有の場合、添付してください | 運営会議において、「令和　4　年度東北大学における教育研究活動等の質保証に関する報告書」として、当該アンケートの自由記述の内容を確認し、対応する委員会等で対応案を検討するよう依頼した。 |
| 3 | 「第４回　東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」（令和３年度実施）の自由記述欄への対応 | 有　　無<br><br>→有の場合、添付してください | 社会人学生から、社会人学生に対する情報提供のあり方について改善要望があった「社会人学生に対する情報提供については改善の余地があると思う。（学内に在籍していれば容易く知り得る情報も学外では得にくい、あるいは知らないまま済んでしまっている場合も有る）」。常に学内で活動する学生との情報格差を感じている。現在は、掲示板中心ではなく、Google Classroom を利用した情報提供に切り替わっているが、更なる工夫を検討したい。 |
| 4 | 単位の実質化に向けた取組状況（１）授業科目レベル | 令和３年度に、令和３年度（もしくは令和２年度）に開講した授業科目について、授業科目ごとの授業時間外学修時間を教務委員会等で確認していますか。<br><br>確認している　　確認していない<br><br>→確認している場合、状況を記載してください。 | 2017 年のから各科目のシラバスに「授業時間外学習」欄を設け、入力を必須化している。授業時間外学修時間については、授業評価アンケートをからまとめ、学部教務委員会、学部教員会議において確認している。 |
| 5 | 単位の実質化に向けた取組状況（２）教育課程レベル | 令和３年度に、令和３年度（もしくは令和２年度）の学士課程各学年の平均履修登録単位数を教務委員会等で確認していますか。<br><br>確認している　　確認していない<br><br>→確認している場合、状況を記載してください。 | ○令和３年度（もしくは令和２年度）の学士課程各学年の平均履修登録単位数<br>１年：５３単位、２年：５０単位、３年：３５位、４年：２６単位、<br>（医歯薬）　　５年：２０　単位、６年：２２　単位<br><br>○上記を踏まえ、教務委員会等で履修登録単位数の上限を検討した等、対応したことがあれば記載してください。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6 | シラバス作成状況のチェック体制 | 有　　無<br>→有の場合、添付してください | シラバスの最終原稿を学部教務委員会で点検・承認された後、薬学部教授会に点検結果を報告する体制としている。<br>※学部教務委員会議事メモ（第 11 回）<br>※学部教授会議事要録（R04.3.16） |
| 7 | 成績評価の分布状況の組織的確認状況 | 有　　無<br>→有の場合、添付してください | 薬学部専門教育科目の成績分布については、3 月の学部教務委員会で確認する体制としている。<br>※学部教務委員会議事メモ（第 11 回）<br>※14.専門科目成績分布 |

# 薬学部教授会（第９回）議事要録

日　時　令和４年　３月１６日（水）[redacted]
場　所　[redacted]
出席者　[redacted]

議　事

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

1　シラバス２０２２（授業計画）について

土井学部教務委員会委員長から、配付資料９により、２０２２年度の学部のシラバスについて、学部教務委員会で点検し、特に内容に不備等はなかった旨の報告があった。

[redacted]

[redacted]

# 令和３年度薬学部専門教育科目　成績分布表

| 講義コード | 講義科目名(名称) | 単位 | 受講者数 | 評価コード（名称） | | | | | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ＡＡ | A | B | C | D | 合 | 不 | |
| YB12002 | 機能形態学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB15004 | 薬学概論１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB21002 | 物理化学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB21003 | 有機化学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB21103 | 有機化学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB22002 | 機能形態学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB22004 | 生化学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB25001 | 分析化学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB31003 | 生化学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB31004 | 有機化学３ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB32001 | 生化学３ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB34003 | 物理化学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB34004 | 生薬学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB35001 | 薬理学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB35003 | 薬剤学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB35004 | 薬学概論２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB35101 | 薬理学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB40001 | 構造薬学実習 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB40002 | 創薬化学実習１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB41003 | 放射化学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB41004 | 有機化学４ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB41104 | 有機化学５ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB42001 | 薬理学３ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB42002 | 生薬学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB43001 | 衛生化学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB43002 | 分析化学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB44001 | 薬剤学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB44002 | 分子生物学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB45001 | 生化学４ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB45002 | 構造化学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB50001 | 創薬化学実習２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB50002 | 生命薬学実習 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB50003 | 医療薬学実習 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB51001 | 分析化学３ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB51002 | 有機反応化学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB54001 | 環境衛生学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB54102 | 医薬品化学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB55001 | 薬理学４ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB55002 | 物理化学３ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB60001 | 専門薬科学実習 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB60002 | 専門薬学実習１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB60060 | 病理学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB61041 | 有機合成化学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB61042 | 天然物化学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB61043 | 新薬開発論 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB61044 | 画像診断薬物学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB62042 | 薬品構造解析学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB62043 | 臨床医学概論 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB62044 | 医薬品化学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB62063 | 疾病学総論 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB62144 | 薬事関係法規１（創薬） | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB62164 | 薬事関係法規１（薬） | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB64061 | 食品衛生学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB64062 | 生体有機物質化学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB64063 | 医薬統計学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB64064 | 感染症学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB64163 | 遺伝分子生物学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB65063 | 免疫学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB70002 | 専門薬学実習２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB70004 | 課題研究（創薬） | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB70060 | 漢方治療学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB72061 | 薬物療法学１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB72062 | 医療情報学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB72063 | 臨床薬理学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB73061 | 臨床薬剤学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB73062 | 衛生化学２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB73063 | 臨床調剤学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB73163 | 処方箋解析学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB80001 | 医療薬学基礎実習 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB80003 | 医療薬学演習１ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB80004 | 医療薬学演習２ | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB80061 | セルフメディケーション学 | [redacted] | | | | | | | | | |
| YB80062 | 臨床コミュニケーション学 | [redacted] | | | | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| YB81061 | 薬物療法学３ | [redacted] | | | | |
| YB81063 | 臨床検査学 | [redacted] | | | | |
| YB82061 | 薬物療法学２ | [redacted] | | | | |
| YB82063 | 薬学英語 | [redacted] | | | | |
| YB82064 | 薬事関係法規２ | [redacted] | | | | |
| YB90001 | 医療薬学病院実習 | [redacted] | | | | |
| YB90002 | 医療薬学薬局実習 | [redacted] | | | | |
| YB90003 | 総合薬学演習 | [redacted] | | | | |
| YB90004 | 課題研究（薬） | [redacted] | | | | |
| 総計 | | [redacted] | | | | |

令和３年度学部教務委員会（第１１回）議事メモ

日　時　　令和４年３月９日（水）[redacted]
場　所　[redacted]
出席者　[redacted]
オブザーバー　[redacted]
欠席者　[redacted]

議　事

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

１１．シラバス２０２２（授業計画）最終原稿について

委員長から、シラバス作成基準の変更に伴い、教務委員会でシラバスの最終原稿を審議する必要がある旨の説明があった。資料に基づき、シラバス２０２２（授業計画）最終原稿について説明の後、これを承認した。

[redacted]

[redacted]

[redacted]

３．令和３年度薬学部専門教育科目成績分布表について

委員長から、資料に基づき、令和３年度薬学部専門教育科目成績分布表について説明

があった。

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

【別紙様式１】

# 令和４年度　東北大学における教育研究活動等の質保証に関する報告書

**※令和３年度の取組状況について記載してください。**

## １　基本単位

（1）基本単位（原則として、教育研究上の基本組織）の名称と責任者

| 基本単位の名称 |
|---|
| 薬学研究科、岩渕好治（薬学研究科長） |

（2）基本単位に置かれた教育課程一覧（※上記（1）において基本単位を「教育課程」に設定している場合は記載不要）

| 教育課程 |
|---|
| 前期２年の課程（分子薬科学専攻、生命薬科学専攻）、後期３年の課程（分子薬科学専攻、生命薬科学専攻）、博士課程（薬学履修課程、医療薬学専攻） |

（3）教育課程における評価の内容の根拠等

| 教育課程 | 評価の内容の根拠等 |
|---|---|
| 前期２年の課程<br>後期３年の課程<br>博士課程（薬学履修課程） | 学生便覧、シラバス、期末試験（筆記試験、レポート等）、日常の観察（課題研究等）、学位審査、東北大学大学院薬学研究科規程（1961.5.23），東北大学大学院薬学研究科履修内規（2005.11.16）、東北大学大学院薬学研究科における課程による学位論文審査に関する取扱内規（1962.4.1）、「第４回　東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」（令和３年度実施） |

## ２　「教育の質保証検証部会」からの精査結果への対応（必要に応じて行を増やして記載してください。）

| 事項（No.） | 精査結果に対する今後の対応（予定を含む） |
|---|---|
| 1 | 「全学部・研究科・課程に対する全般的事項」に関して、薬学研究科の３ポリシー、カリキュラムマップ等について、学生便覧及びHPにも掲載している。 |

| | |
|---|---|
| 2 | 「国公立大学６年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケートを実施（2020 年５月）した。<br>就職先等からの意見聴取については、令和３年度実施予定として検討する。」☞“国公立大学６年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケート（2020 年５月実施）で聴取した意見等を部局の教育研究活動等の改善に反映させてくださいますようよろしくお願いいたします。→「一方、国公立大学６年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケートの結果をうけ、実務実習の実施体制・方法の改善施策の検討を継続している。さらに令和３年度には「国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ」をオンラインで共同開催（2021.9.25）し、その中で「キャリア形成ワークショップ」として社会で活躍する薬学博士人材・薬学博士人材の在り方を卒業生・在校生・教員間で意見交換する機会を設けた。」と記載いたしました。就職先等からの意見聴取については令和３年度実施する準備として、過去５年間の就職先と就職人数を整理したところ、学部卒・大学院修了生合わせて３名以上就職している企業が 26 社（10 名以上では４社）であった。運営会議で議論した結果、令和３年度の意見聴取実施を見送り、令和４年度以降の実施を検討することとした。 |
| 3 | 令和２年度入学者では、博士課程で　90%を下回っておりました。指標となるのは在籍学生数ですが、厳格な定員管理に向けて、ご注意願います。→受験対象となる内外の学生に対しては、機会のある毎に大学院課程の魅力、キャリアパス、学生支援の現状などの説明を兼ねたリクルート活動を行うこととしています。令和　3　年度においては、特に東北大学大学院薬学研究科医療薬学課程における修業年限短縮による課程修了に関する細則を改正し、学生の選択肢を増やしました。 |
| 6 | 「本項目記載の評価方法により得られた意見等」に関して、例えば、施設設備については、「どのような状況下（コロナ禍など）においても、質の高い遠隔教育や、自立型の予習・復習を可能とする効率的な個別学習等の充実・確保に向けて取り組んだ。なお、大講義室および C 棟講義室にハイフレックス講義対応のための設備を検討し、導入した。令和４年度に中講義室に同様の設備を導入する計画とした。」として反映しました。 |
| 7 | FD 参加者数<br>「ハラスメント防止対策講習会」72 名、　「令和２年度情報セキュリティ・個人情報保護教育」110 名、<br>「令和２年度研究費不正使用防止コンプライアンス教育」124 名、　「新型コロナ E-learning」106 名 |

## 3　三つのポリシーについて

（1）基本単位（教育課程）が設定する三つのポリシー

| | |
|---|---|
| 学位授与方針 | <u>分子薬科学専攻</u><br>　分子薬科学専攻博士課程前期２年の課程では、分子薬科学における幅広い学識を備え、医薬品開発における有機合成と分子解析および疾病の分子機構と医薬品の作用機序に関する研究力量と高度な薬学の専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけていることを課程修了の要件とする。<br>　分子薬科学専攻博士課程後期３年の課程では、研究者として自立して活動できる専門的、先端的な研究能力を有し、国際的に分子薬科学研究を先導できる優れた能力を身につけていることを課程修了の要件とする。<br>　それぞれ以下の学習目標を達成し、所定の単位を取得するとともに、優れた研究者としての能力を持つと判断された学生に対して修士（薬科学）、および博士（薬科学）の学位を授与する。<br><br>［博士課程前期２年の課程　学習目標］<br>（１）教養の涵養<br>・分子薬科学を中心として薬の専門家としての知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。<br>（２）専門の修養<br>・分子薬科学を基盤とした医薬品開発に関する有機合成と分子解析に関する専門知識を持ち、実践できる。<br>・医薬品開発研究における倫理観、使命感を身につけている。 |

| | |
|---|---|
| | （３）真理の探究<br>・高度な専門知識と技術を基にした研究を企画・遂行できる。<br>・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。<br>（４）国際感覚の鍛錬<br>・研究者として国際的な発信ができる。<br>［博士課程後期３年の課程　学習目標］<br>（１）教養の涵養<br>・分子薬科学のみならず、薬の専門家としての幅広い知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。<br>（２）専門の修養<br>・医薬品開発に関する有機合成と分子解析に関する幅広く、かつ高度な専門知識を持ち、実践できる。<br>・医薬品開発研究における倫理観、使命感を身につけている。<br>（３）真理の探究<br>・高度な専門知識と技術を基にし、当該領域の課題を解決するための研究を企画・遂行できる。<br>・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。<br>・論理的な論文として完成できる。<br>（４）国際感覚の鍛錬<br>・研究者として国際的な活躍ができる。<br><br><u>生命薬科学専攻</u><br>　生命薬科学専攻博士課程前期２年の課程では、生命薬学における幅広い学識を備え、疾病の分子機構と医薬品の作用機序、医薬品開発に関する研究力量と高度な薬学の専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけていることが課程修了の要件とする。<br>　生命薬科学専攻博士課程後期３年の課程では、研究者として自立して活動できる専門的、先端的な研究能力を有し、国際的に生命薬科学研究を先導できる優れた能力を身につけていることが課程修了の要件とする。<br>　それぞれ以下の学習目標を達成し、所定の単位を取得するとともに、研究者としての能力を持つと判断された学生に対して修士（薬科学）、および博士（薬科学）の学位を授与する。<br><br>［博士課程前期２年の課程　学習目標］<br>（１）教養の涵養<br>・生命薬学を中心として、薬の専門家としての知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。<br>（２）専門の修養<br>・生命薬学を基盤とした医薬品開発に関する専門知識を持ち、実践できる。<br>・医薬品開発研究における倫理観、使命感を身につけている。<br>（３）真理の探究 |

| | |
|---|---|
| | ・高度な専門知識と技術を基にした研究を企画・遂行できる。<br>・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。<br>（４）国際感覚の鍛錬<br>・研究者として国際的な発信ができる。<br><br>［博士課程後期３年の課程　学習目標］<br>（１）教養の涵養<br>・生命薬学のみならず、薬の専門家としての幅広い知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。<br>（２）専門の修養<br>・医薬品開発に関する幅広く、かつ高度な専門知識を持ち、実践できる。<br>・医薬品開発研究における倫理観、使命感を身につけている。<br>（３）真理の探究<br>・高度な専門知識と技術を基にし、当該領域の課題を解決するための研究を企画・遂行できる。<br>・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。<br>・論理的な論文として完成できる。<br>（４）国際感覚の鍛錬<br>・研究者として国際的な活躍ができる。<br><br><u>医療薬学専攻</u><br>　高度な専門薬剤師として専門知識と技能、臨床研究を企画･遂行できる能力を修得させ、臨床開発研究･教育･医療機関において将来リーダーとして、医薬品の臨床開発に貢献する研究者・薬剤師を育成する。以下の学習目標を達成し、所定の単位を取得するとともに、学位論文ならびに研究者としての能力を持つと判断された学生に対して博士（薬学）の学位を授与する。<br><br>［学習目標］<br>（１）教養の涵養<br>・薬の専門家としての幅広い知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。<br>（２）専門の修養<br>・医薬品の適正使用と薬物治療等に関する幅広く、かつ高度な専門知識を持ち、実践できる。<br>・基礎研究・臨床研究、および医療に携わるための倫理観、使命感を身につけている。<br>（３）真理の探究<br>・高度な専門知識と技術を基にした研究を企画・遂行できる。<br>・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。<br>・論理的な論文として完成できる |

| | |
|---|---|
| | （４）国際感覚の鍛錬<br>・研究者、薬剤師として国際的な活躍ができる。 |
| 教育課程方針 | <u>分子薬科学専攻</u><br>1.教育課程の編成方針<br>　薬学研究科では薬学部での教育を引継ぎ、さらに発展させるカリキュラムを編成している。ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の涵養」、「真理の探究」、および「国際感覚の鍛錬」における学習目標を達成するために必要な講義科目、演習科目、実習科目および、課題研究等を適切に組み合わせた教育を実施する。博士課程前期においては、専門分野にとらわれない分野横断的な学際領域を学べるカリキュラムを実施して、自己研鑽できる研究力量と国際性を持ち、医薬品開発に貢献できる研究者を養成します。また、博士課程後期においては、幅広い視野から自己の研究を位置づけ、自己の研究の成果と意義を国際的水準で議論し、論理的に研究を展開できる能力を養成する。<br>　修了時に到達すべき学習目標を学生が達成できるように、各科目で習得される知識、能力を明示したシラバスと、体系性を示した科目ナンバリング、カリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。<br>2.教育課程における教育・学習方法に関する方針<br>［博士課程前期２年の課程］<br>（１）教養の涵養<br>・分子薬科学を中心とした当該領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを発揮するための素養を身につける。<br>（２）専門の修養<br>・医薬品開発における有機合成と分子解析、情報科学、創薬科学の研究技術に関する基盤的・先端的な専門知識、ならびに研究者としての倫理観および使命感は、講義、演習および課題研究により修得する。<br>（３）真理の探究<br>・医薬品開発における有機合成と分子解析に関する研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。<br>（４）国際感覚の鍛錬<br>・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。<br>（５）研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。<br><br>［博士課程後期３年の課程］<br>（１）教養の涵養<br>・幅広い領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを発揮するための素養、問題解決能力を身につける。<br>（２）専門の修養<br>・医薬品開発における有機合成と分子解析、情報科学、創薬科学の研究技術に関する先端的で高度な専門知識、ならびに研究者としての倫理観および使命感は、演習および課題研究により修得する。<br>（３）真理の探究<br>・医薬品開発における分子薬科学研究に関する課題を発見し、主体的に研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習 |

| | |
|---|---|
| | 科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。<br>（４）国際感覚の鍛錬<br>・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。<br>（５）研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。<br><br>3.学習成果の評価の方針<br>（１）科目については、到達度を確認できる成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を 評価する。<br>（２）学位論文ならびに研究者としての能力に関して明確な基準を策定し、評価する。<br>（３）教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。<br><br><br><u>生命薬科学専攻</u><br>１．教育課程の編成方針<br>　薬学研究科では薬学部での教育を引継ぎ、さらに発展させるカリキュラムを編成している。ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の涵養」、「真理の探究」、および「国際感覚の鍛錬」における学習目標を達成するために必要な講義科目、演習科目、実習科目および、課題研究等を適切に組み合わせた教育を実施する。博士課程前期においては、専門分野にとらわれない分野横断的な学際領域を学べるカリキュラムを実施して、自己研鑽できる研究力量と国際性をもち、医薬品開発に貢献できる研究者を養成する。また、博士課程後期においては、幅広い視野から自己の研究を位置づけ、自己の研究の成果と意義を国際的水準で議論し、論理的に研究を展開できる能力を養成する。<br>　修了時に到達すべき学習目標を学生が達成できるように、各科目で習得される知識、能力を明示したシラバスと、体系性を示した科目ナンバリング、カリキュラムマップを可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。<br><br>２．教育課程における教育・学習方法に関する方針<br>［博士課程前期２年の課程］<br>（１）教養の涵養<br>・生命薬学を中心とした当該領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを発揮するための素養を身につける。<br>（２）専門の修養<br>・生命薬学研究および創薬のための基盤的・先端的な専門知識と疾病に関わる生命科学、情報科学、創薬科学の研究技術に関する基盤的・先端的な専門知識、ならびに研究者としての倫理観および使命感は、講義、演習および課題研究により修得する。<br>（３）真理の探究<br>・医薬品開発における生命薬科学研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。<br>（４）国際感覚の鍛錬<br>・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。 |

| | |
|---|---|
| | （５）研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。<br><br>［博士課程後期３年の課程］<br>（１）教養の涵養<br>・幅広い領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを発揮するための素養、課題解決能力を身につける。<br>（２）専門の修養<br>・生命薬学研究および創薬のための基盤的・先端的な専門知識と疾病に関わる生命科学、情報科学、創薬科学の研究技術に関する先端的で高度な専門知識、ならびに研究者としての倫理観および使命感は、講義、演習および課題研究により修得する。<br>（３）真理の探究<br>・医薬品開発における生命薬科学研究に関する課題を発見し、主体的に研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。<br>（４）国際感覚の鍛錬<br>・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。<br>（５）研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。<br><br>３．学習成果の評価の方針<br>（１）科目については、到達度を確認できる成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。<br>（２）学位論文ならびに研究者としての能力に関して明確な基準を策定し、評価する。<br>（３）教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。<br><br><u>医療薬学専攻</u><br>1.教育課程の編成方針<br>　薬学研究科では薬学部での教育を引継ぎ、さらに発展させるカリキュラムを編成する。ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の涵養」、「真理の探究」、および「国際感覚の鍛錬」における学習目標を達成するために必要な講義科目、演習科目、実習科目および、課題研究等を適切に組み合わせた教育を実施する。さらに「腫瘍専門薬剤師養成コース」および「スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コース」では、高度な専門薬剤師としての実践的な能力を育成する。<br>　修了時に到達すべき学習目標を学生が達成できるように、各科目で習得される知識、能力を明示したシラバスと、体系性を示した科目ナンバリング、カリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。<br><br>2.教育課程における教育・学習方法に関する方針<br>（１）教養の涵養<br>・医療薬学を中心とした幅広い領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを発揮するための素養、課題解決能力を身につける。 |

| | |
|---|---|
| | （２）専門の修養<br>・医薬品の適正使用と薬物治療、臨床研究等に関する高度な専門知識、倫理観、および使命感は、研究科の教員だけでなく、現場の薬剤師、医師、医療従事者等による講義、演習により修得する。<br>・腫瘍専門薬剤師養成コースでは、腫瘍専門薬剤師としての高度な知識、技術を修得するため、大学病院等との連携のもと、講義、演習、実習科目を設定する。<br>・スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コースでは、個別化医療を実践するために必要な知識・技術を身につけるための講義、演習、実習科目を設定する。<br><br>(3) 真理の探究<br>・薬に関する基礎研究ならびに臨床研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。<br>(4) 国際感覚の鍛錬<br>・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。<br>(5) 研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。<br><br>3.学習成果の評価の方針<br>（１）科目については、到達度を確認できる成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。<br>（２）学位論文ならびに研究者としての能力に関して明確な基準を策定し、評価する。<br>（３）教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。 |
| 学生受入方針 | 大学院薬学研究科が大学院志願者に求める学生像<br>博士課程前期２年の課程では、学部教育で修得した基礎的知識・技術を、薬の創生から適正使用までの高度な知識と応用力へと発展させることができる薬学研究者・技術者を育成するために、物質科学や生命科学の高度な知識と技術を獲得したいという意欲を持つ人を求めます。<br>博士課程後期３年の課程では、最先端の創薬科学研究、医療薬学研究を自らの力で推進できる能力をもつ優れた研究者を育成するために、医薬品の創製や疾病の分子機構の解明などに強い関心を持ち、将来は創薬科学領域でリーダーとして社会に貢献できる人を求めます。<br>医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程）では、高度な専門薬剤師として専門知識と技能、臨床研究を企画･遂行できる能力をもち、臨床開発研究･教育･医療機関において将来リーダーとして、医薬品の臨床開発に貢献する研究者・薬剤師を育成するために、医療薬学を中心とする薬学の知識や技術を修得し、将来は薬学の専門家として医療の一翼を担い得る人を求めます。腫瘍専門薬剤師養成コースは、腫瘍領域で先導的役割を担う腫瘍専門薬剤師を目指す人を対象にしています。スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コースは、チーム医療における薬剤の専門家として、高度な先進的薬学分析力をもとに主体的に薬物治療に参画する薬剤師を目指す人を求めます。<br><br>大学院薬学研究科の入試方法<br>博士課程前期２年の課程では、「一般選抜」、「推薦入試」及び「外国人留学生等特別選抜」の枠を設け、博士課程後期３年の課程では、「編入学試験」、「社会人特別選抜」、「外国人留学生等特別選抜」の枠を設け、医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程）では、「一般選抜」、「社会人特別選抜」、「外国人留学生等特別 |

| | |
|---|---|
| | 選抜」の枠を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行います。<br><br>（博士課程前期２年の課程）<br>一般選抜試験は、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門的知識を評価する筆記試験を行い、特に専門的知識を重視して選抜します。<br>推薦入試は、出身大学長の推薦に基づき、外部試験による英語力の確認と、論理的思考力を評価する筆記試験及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。<br>外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門的知識を評価する筆記試験及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。<br>なお、入学前に、物質科学や生命科学に関する基礎的知識に加え、薬の創生から適正使用までの高度な知識、及び応用力を育むために必要な薬学全般における基礎的知識と技術、ならびに基本的な英語力を修得していることを希望します。<br>（博士課程後期３年の課程）<br>編入学試験は、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する高度な専門知識を評価する筆記試験及び研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。<br>社会人特別選抜試験は、技術者、教員、研究者として勤務し、入学後もその身分を継続する者を対象とし、薬学に関する高度な専門知識、研究適性、及び研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。<br>外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する高度な専門知識を評価する筆記試験及び研究適性、研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。<br>なお、入学前に、薬学領域、特に関連性のある専門科目において、取得した知識と技術を、薬の創生から適正使用までの高度な知識とそれらを研究に応用することができる能力、ならびに専門領域において国際的に活躍できる英語力を身につけていることを希望します。<br><br>（医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程））<br>一般選抜試験は、出願書類の内容、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門知識を評価する筆記試験及び研究適性等を評価する口頭試問を行い、特に専門知識を重視して選抜します。<br>社会人特別選抜試験は、原則として薬剤師の資格を有し、病院薬剤部等に１年以上勤務し、入学後もその身分を継続する者を対象とし、薬学に関する専門知識、研究適性及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。<br>外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、英語力と薬学に関する専門知識、研究適性、及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。<br>なお、入学前に、薬学領域において取得した知識と技術を、薬の適正使用へと発展させることができる能力、ならびに専門領域において国際的に活躍できる英語力を身につけていること、さらに薬剤師国家試験に合格していることを希望します。 |

(2) ポリシーの整備・活用状況

| 観　　点 | | 根　拠　等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います） |
|---|---|---|
| 1 | 教育課程方針における、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針の明示 | 分子薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬学専攻において、それぞれ専攻毎に①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針（分子薬科学と生命薬科学専攻では博士課程前期と博士課程後期、医療薬学専攻）、③学習成果の評価の方針を明示している。<br>根拠：薬学研究科カリキュラムポリシー |
| 2 | 学位授与方針と大学の目的との整合性 | 分子薬科学専攻博士課程前期２年の課程では、分子薬科学における幅広い学識を備え、医薬品開発における有機合成と分子解析および疾病の分子機構と医薬品の作用機序に関する研究力量と高度な薬学の専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけていることを課程修了の要件とし、博士課程後期３年の課程では、研究者として自立して活動できる専門的、先端的な研究能力を有し、国際的に分子薬科学研究を先導できる優れた能力を身につけていることを課程修了の要件とする。<br>生命薬科学専攻博士課程前期２年の課程では、生命薬学における幅広い学識を備え、疾病の分子機構と医薬品の作用機序、医薬品開発に関する研究力量と高度な薬学の専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけていることが課程修了の要件とし、博士課程後期３年の課程では、研究者として自立して活動できる専門的、先端的な研究能力を有し、国際的に生命薬科学研究を先導できる優れた能力を身につけていることが課程修了の要件とする。<br>医療薬学専攻では、高度な専門薬剤師として専門知識と技能、臨床研究を企画･遂行できる能力を修得させ、臨床開発研究･教育･医療機関において将来リーダーとして、医薬品の臨床開発に貢献する研究者・薬剤師を育成します。以下の学習目標を達成し、所定の単位を取得するとともに、学位論文ならびに研究者としての能力を持つと判断された学生に対して博士（薬学）の学位を授与する。<br>これらは、世界水準の研究を理解し、これに創造的知見を加えて新たな展開を遂行できる創造力豊かな研究者及び高度な専門的知識を持つ高度専門職業人を養成するとする大学の目的と整合している。 |
| 3 | 教育課程方針と学位授与方針との整合性 | 各専攻の学位授与方針においては教育理念に基づく４つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」を規定し、それを受けて、教育課程方針において４つの学習目標を掲げ、これらの目標を達成できるようにカリキュラムを編成し、研究者としての能力を判定するため、学位論文の提出ならびに最終試験を課している。従って、教育課程方針と学位授与方針は整合性を有している。 |
| 4 | 教育課程の編成の体系性 | 分子薬科学専攻と生命薬科学専攻においては、博士課程前期２年の課程および博士課程後期３年の課程に開講する科目の体系性を４つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」ごとに定め、それぞれの専攻におけるカリキュラムマッピングとしてシラバスに |

| | | |
|---|---|---|
| | | 提示している。医療薬学専攻においては、医療薬学コース、腫瘍専門薬剤師養成コース、スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コースそれぞれについて１年次から４年次に開講する科目の体系性を４つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」ごとに定め、カリキュラムマッピングとしてシラバスに提示している。 |
| 5 | 学習成果の達成が授与する学位に相応しい水準か | 学位授与方針の中で、学習成果の達成と学位授与との関係について明確とし、４つの学習目標（教養の涵養、専門の修養、真理の探究、国際感覚の鍛錬）を達成し、所定の単位を取得するとともに、優れた研究者としての能力を持つと判断された学生に対して修士（薬科学）、および博士（薬科学）、博士（薬学）の学位を授与することを明示している。核となる４つの目標、すなわち教養の涵養、専門の修養、国際感覚の鍛錬、真理の探究を達成し、学位論文の審査ならびに最終試験に合格することは、それぞれの学位に相応しい水準である。 |
| 6 | 学位授与方針や教育課程方針に即した成績評価基準の策定及びそれを用いて厳格かつ客観的な成績評価や単位認定の実施 | 成績評価基準は薬学研究科規程に定められ学生便覧により学生等に周知される。各科目の成績評価法はシラバスで学生に周知する。<br>第 14 条 授業科目の履修の認定は、試験による。<br>第 15 条 試験は、授業の終了した学期の終わりに行う。<br>第 16 条 試験を受けることのできる授業科目は、所定の手続きを経て履修した授業科目に限る。<br>第 17 条 病気その他やむを得ない理由により、試験を受けることができなかった者に対しては、当該試験の終了後３日以内に願い出た場合に限り、追試験を行うことがある。<br>第 18 条 試験の結果合格と認め得ない場合でも、更に若干の日数をかけて指導を加えれば合格することができると認められる者に限り、不合格の決定を猶予し、再試験を行うことがある。<br>第 19 条 試験の成績は、100 点満点とし、次の区分により評価する。ただし、授業科目によっては、合格、不合格とすることがある。AA　90 点から 100 点まで。A　80 点から 89 点まで。B 70 点から 79 点まで。C　60 点から 69 点まで。D　59 点以下。２　前項による評価 AA、A、B、C は合格とし、評価 D は不合格とする。<br>教務係により各科目担当教員からの評価が集計され、研究科教務委員会、薬学研究科教員会議、薬学研究科教授会の審議を経て単位認定が行われる。以上のとおり、成績評価基準に基づき厳格かつ客観的な成績評価および単位認定が実施されている。<br>根拠：東北大学大学院薬学研究科規程 |
| 7 | 学位授与方針に即した卒業又は修了の要件の策定 | 修了の要件は、薬学研究科規程に定められ学生便覧により学生等に周知される。第 24 条において、修了要件とする単位数および学位論文の提出と最終審査について明記されている。第 25 条に学位論文を提出する際の在学期間、第 26 条に最終試験を受けるための要件を明示する。学位論文及び最終試験の成績は、合格又は不合格の区分で評価され（第 27 条）、課程修了の認定は、研究科委員科の議を経て研究科長が行う（第 28 条）。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 所属する専攻の専門科目及び関連科目は、学位授与方針に定める４つの目標（教養の涵養、専門の涵養、国際感覚の鍛錬、真理の探究）に対応して系統的にカリキュラムマッピングされているものである。これより、学位授与方針に即した卒業要件が策定されている。<br>根拠：東北大学大学院薬学研究科規程 |
| 8 | 卒業（修了）時の学生からの意見聴取や就職先等からの意見聴取による学位授与方針に即した学修成果の修得状況 | 卒業（修了）時の学生からの意見聴取や就職先等からの意見聴取の方法として、従来の手紙等に加えてオンラインツール（例えばグーグルフォーム）を活用し、記名・無記名の方法によって実施するとしている。令和２年度においては、意見聴取を行ったことから、令和３年度においては卒業時の学生や就職先等からの意見聴取は行わなかった。一方、国公立大学６年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケートの結果をうけ、実務実習の実施体制・方法の改善施策の検討を継続している。さらに令和３年度には「国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ」をオンラインで共同開催（2021.9.25）し、その中で「キャリア形成ワークショップ」として社会で活躍する薬学博士人材・薬学博士人材の在り方を卒業生・在校生・教員間で意見交換する機会を設けた。高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センターによる「第４回東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」で聴取された内容から専門分野に関する知識・技能の修得は十分である一方専門分野以外の幅広い教養の修得があまりないと回答した卒業生が30%程度であった。学位授与方針にある「教養の涵養」を高めるため、低学年における履修指導を検討することとした。 |
| 9 | 学生受入方針への「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方の明示 | 学生受入方針において、求める学生像を博士課程前期２年の課程では「学部教育で修得した基礎的知識・技術を，薬の創生から適正使用までの高度な知識と応用力へと発展させることができる薬学研究者・技術者を育成するために，物質科学や生命科学の高度な知識と技術を獲得したいという意欲を持つ人を求めます。」、博士課程後期３年の課程では，「最先端の創薬科学研究，医療薬学研究を自らの力で推進できる能力をもつ優れた研究者を育成するために，医薬品の創製や疾病の分子機構の解明などに強い関心を持ち，将来は創薬科学領域でリーダーとして社会に貢献できる人を求めます。」、そして医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程）では，「高度な専門薬剤師として専門知識と技能，臨床研究を企画･遂行できる能力をもち，臨床開発研究･教育･医療機関において将来リーダーとして，医薬品の臨床開発に貢献する研究者･薬剤師を育成するために，医療薬学を中心とする薬学の知識や技術を修得し，将来は薬学の専門家として医療の一翼を担い得る人を求めます。腫瘍専門薬剤師養成コースは，腫瘍領域で先導的役割を担う腫瘍専門薬剤師を目指す人を対象にしています。スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コースは，<br>チーム医療における薬剤の専門家として，高度な先進的薬学分析力をもとに主体的に薬物治療に参画する薬剤師を目指す人を求めます。」と明示している。<br>学生受入方針において、入学者選抜の基本方針を「博士課程前期２年の課程では，「一般選抜」，「推薦入試」及び「外国人留学生等特別選抜」の枠を設け，博士課程後期３年の課程では，「編 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 入学試験」,「社会人特別選抜」,「外国人留学生等特別選抜」の枠を設け，医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程）では，「一般選抜」,「社会人特別選抜」,「外国人留学生等特別選抜」の枠を設けて入学試験を実施し，これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行います。」とし、博士課程前期２年の課程においては、「一般選抜試験は，外部試験による英語力の確認と，薬学に関する専門的知識を評価する筆記試験を行い，特に専門的知識を重視して選抜します。推薦入試は，出身大学長の推薦に基づき，外部試験による英語力の確認と，論理的思考力を評価する筆記試験及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い，特に研究意欲を重視して選抜します。外国人留学生等特別選抜試験は，外国人留学生等を対象とし，外部試験による英語力の確認と，薬学に関する専門的知識を評価する筆記試験及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い，特に研究意欲を重視して選抜します。」、博士課程後期３年の課程においては、「編入学試験は，外部試験による英語力の確認と，薬学に関する高度な専門知識を評価する筆記試験及び研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い，特に研究能力を重視して選抜します。 社会人特別選抜試験は，技術者，教員，研究者として勤務し，入学後もその身分を継続する者を対象とし，薬学に関する高度な専門知識，研究適性，及び研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い，特に研究能力を重視して選抜します。外国人留学生等特別選抜試験は，外国人留学生等を対象とし，外部試験による英語力の確認と，薬学に関する高度な専門知識を評価する筆記試験及び研究適性，研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い，特に研究能力を重視して選抜します。」、医療薬学専攻博士課程においては「一般選抜試験は，出願書類の内容，外部試験による英語力の確認と，薬学に関する専門知識を評価する筆記試験及び研究適性等を評価する口頭試問を行い，特に専門知識を重視して選抜します。 社会人特別選抜試験は，原則として薬剤師の資格を有し，病院薬剤部等に１年以上勤務し，入学後もその身分を継続する者を対象とし，薬学に関する専門知識，研究適性及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い，特に研究意欲を重視して選抜します。 外国人留学生等特別選抜試験は，外国人留学生等を対象とし，英語力と薬学に関する専門知識，研究適性，及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い，特に研究意欲を重視して選抜します。」とそれぞれ明示している。 |
| 10 | 学生受入方針に沿った、受入方法の採用、実施体制による公正な入学者選抜の実施 | 学生受入方針に沿って、博士課程前期２年の課程においては、募集人員 54 名として、入学を志望する専攻科目（分野）から第 4 志望までを選択して志願する。志願者は、事前に第 1 志望専攻科目（分野）の教授（教授不在の分野においては准教授等）に必ず問合せすることとしている。受け入れ先となる専攻科目（分野）は、分子薬科学専攻として医薬製造化学分野、分子設計化学分野、合成制御化学分野、反応制御化学分野、分子変換化学分野、医薬資源化学分野、界面物性化学分野、生物構造化学分野、分子動態解析学分野であり、生命薬科学分野として薬理学分野、臨床分析化学分野、分子細胞生化学分野、薬物送達学分野、衛生化学分野、代謝制御薬学 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 分野、生命機能解析学分野、臨床薬学分野、がん化学療法薬学分野、生活習慣病治療薬学分野、病態分子薬学分野としている。入学者の選考方法は、学力試験及び出願書類等を総合して行い、学力試験は英語（試験時間 60 分）及び専門科目（試験時間 120 分）によって行う。専門科目は、有機化学群（３問）、物理・分析化学群（２問）、生命科学（３問）、医療薬科学群（２問）の 10 問が出題され、5 問を選択して解答する。なお、志望する専攻科目（分野）によっては指定される教科がある。合格者の決定は、研究科委員会の議を経て研究科教授会で最終決定される。<br>博士課程後期３年の課程においては、募集専攻を上記専攻科目（分野）とし募集人員若干名とする。志願者は、入学後の研究計画等について事前に入学を希望する当該分野の教授（教授不在の分野については准教授等）に必ず問い合わせることとしている。入学者の選考は、学力試験、研究発表（15 分）及び面接試問（5 分）の結果及び出願書類等を総合して行う。ただし、理科系研究科出身者については学力試験及び出願手続きにある英語のスコア提出が免除される。合格者の決定は、研究科委員会の議を経て研究科教授会で最終決定される。<br>医療薬学専攻においては、募集専攻を上記専攻科目（分野）とし募集人員若干名とする。志願者は、入学後の研究計画等について事前に入学を希望する当該分野の教授（教授不在の分野については准教授等）に必ず問い合わせることとしている。入学者の選考は、学力試験の結果及び出願書類等を総合して行う。学力試験は、英語のスコア提出及び専門科目（90 分）となる。なお、社会人特別選抜・外国人留学生等特別選抜の入学者選考は、志願理由・研究計画の発表（5 分）と面接試問（10 分）の結果及び出願書類等を総合して行う。合格者の決定は、研究科委員会の議を経て研究科教授会で最終決定される。<br>大学院入試は、研究科入試委員会（委員長：研究科長、副研究科長、研究科教務委員長、作題委員長、面接委員長、実施委員長）の下、作題委員会（委員長、作題班長６名）、面接委員会（委員長、基幹・協力講座の全教授）、実施委員会（委員長、作題委員長）の体制で公正に実施される。 |
| 11 | 学生受入方針に沿った学生の受入の検証、検証結果の入学者選抜の改善への利用 | 令和２年度の教授懇談会において、学生の受入について点検・見直しを行うため、WGを設置した（WG：学部教務委員長、研究科教務委員長、創薬科学科長、薬学科長、分子薬科学専攻長、生命薬科学専攻長、医療薬学専攻長）。本WGで、求める学生像や入試方法等について検討された受入方針の改定案を、学部教務委員会、研究科教務委員会でさらに精査・検討を行った。 |
| 12 | 実入学者数の入学定員に対する比率 | 令和３年度における入学定員に対する比率は以下のとおりであった。<br>前期２年の課程　入学定員 54　入学者数 66　127.8%<br>後期３年の課程　入学定員 18　入学者数 16　88.9%<br>薬学履修課程　入学定員 4　入学者数 2　50.0% |

## 4　学生支援について

| 観　　点 | | 根　拠　等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います） |
|---|---|---|
| 1 | 学生に対する、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援の状況 | 学生相談担当教員（男女各１名）のほか、クラス担任や分野（指導）教員、教務委員長及び教務係で対応する。相談窓口等については学生便覧に掲載しており、オリエンテーション等でも周知している。<br>特に令和３年度についても新型コロナの影響で多くがオンライン授業を併用した。ピアサポーターや教員によりメンタル面にも注意しながらサポートを行った。移動に伴う感染症拡大抑制の観点から、緊急事態宣言下の地域から帰仙した場合、１週間の自宅待機とすることとしてホームページや担任等を通じて周知した。感染防止対策については、講義の際に具体的な項目を挙げ、注意喚起することで行った。<br>令和３年度の入学者オリエンテーションおよび学科ガイダンスについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環でオンライン／オンデマンド開催とした。全体のカリキュラムを俯瞰できるように説明するとともに、生活や進路、課外活動、経済面での援助制度についての情報提供を行った。<br>大学院通則第 43 条において授業料免除等を定め、東北大学学生生活案内、学生便覧でも周知している。学生の経済的支援に関して、授業料免除、日本学生支援機構等の奨学金制度についての情報は学生便覧およびホームページで周知する他、教務係から学生に情報提供され、個別に支援を行っている。 |
| 2 | 留学生への生活支援等を行う体制及び生活支援の状況 | 主に分野（指導）教員、チューター及び教務係が連携しながら、奨学金等の情報提供、ユニバーシティハウスや民間アパートへの入居支援、在留資格更新等の手続支援を行っている。令和３年度については、新型コロナの影響で来日できていない学生もおり、授業料等の納付方法や COE の更新情報などきめ細かく支援等を行った。 |
| 3 | 障害のある学生その他特別な支援が必要な学生への生活支援等の体制及び生活支援の状況 | 教務係や教務委員会、相談員や担任などが全学の教務課や特別支援室などと連携を取り、逐一対応ができるようになっている。<br>担当する組織等：研究科教務委員会、学部教務委員会、学生支援委員会 |
| 4 | 学生に対する経済面での援助 | 上記の通り、大学院通則第 43 条において授業料免除等を定め、東北大学学生生活案内、学生便覧でも周知している。学生の経済的支援に関して、授業料免除、日本学生支援機構等の奨学金制度についての情報は学生便覧およびホームページでの周知、各学年のグーグルクラスルーム他、教務係から学生に情報提供され、個別に支援を行っている。これにより、令和３年度において、授業料免除者は、前後期延べ人数で 79 名（全免 34 名、半免 45 名、2/3 免除 0 名、1/3 免除 0名）、学生支援機構奨学金受領者 45 名となっている。 |

## ５　教育・学生支援に関する施設設備について

| 観　　点 | | 根　拠　等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います） |
|---|---|---|
| 1 | 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備の整備状況 | 研究活動を行うために必要な施設・設備は、学生が配属された分野および中央機器室に適切に整備されている。講義は主に青葉山地区の薬学研究科・薬学部の施設で行われる。一部の講義については、星陵キャンパスあるいは青葉山コモンズで行われる。薬学部A棟は昭和44年に、B棟は昭和47年に建設され、平成8-9年に内部改修が行われた。平成15年に総合応用薬学研究棟（C棟）が建設された。薬学研究科には、1学年の学生を収容できる大講義室（156席）、中講義室（104席）、C棟講義室（138席）があり、さらに少人数教育として利用できる第１小講義室（48席）、第２小講義室（32席）、第一セミナー室（18 席）、C 棟セミナー室がある。その他、B 棟学生実習室、C棟学生実習室、情報教育室、第３実習室（模擬薬局）、実験動物飼育管理施設、附属薬用植物園を設備する。なお大講義室および C 棟講義室にハイフレックス講義対応のための設備を検討し導入した。令和４年度に中講義室に同様の設備を導入する計画とした。令和３年４月に附属薬用植物園のホームページをリニューアルし、コンテンツの充実化を図った。令和４年１月に薬用植物園周辺に出没する野生動物から標本・資料を保護する目的で薬用植物園内に電気柵を設置した。課題研究は、各分野で実施するが、各研究に必要な機器等は指導教員の個々が競争的資金を得て整備している。また中央機器室、生体分子解析室、ハイスループット・スクリーニング室、低温室等がある。<br>図書および学習資料は、川内北キャンパスにある東北大学附属図書館本館並びに青葉山キャンパスにある北青葉山図書館を主に利用している状況である。 |
| 2 | 施設・設備における安全性の配慮の状況 | 薬学研究科・薬学部安全衛生委員会委員（委員長は研究科長・事業場責任者、副委員長は環境管理委員長、委員として分子薬科学専攻長、医療薬学専攻長、生命薬科学専攻長、安全・衛生管理者、用度係長、産業医）が定期的に巡視・インタビューすることにより、施設・設備の状況を把握するとともに、必要に応じて改善点を指摘し、改善前後の状態・効果・評価結果をフィードバックすることにより、安全性の確保を行う体制とて取り組んだ。 |
| 3 | 教育研究活動を展開する上で必要なＩＣＴ環境の整備状況及び有効活用の状況 | 無線 LAN などの高速ネットワーク環境やクラウド環境、さらに Google Classroom や Google Meet 等を含めたＩＣＴ環境・学習ツールを整備・浸透させ、全ての授業に対して、これらの環境・ツールを駆使したオンライン授業やオンデマンド授業、e ラーニングを利活用することで、どのような状況下（コロナ禍など）においても、質の高い遠隔教育や、自立型の予習・復習を可能とする効率的な個別学習等の充実・確保に向けて取り組んだ。なお、大講義室および C 棟講義室にハイフレックス講義対応のための設備を検討し、導入した。令和４年度に中講義室に同様の設備を導入する計画とした。 |

## ６　基本単位における「教育研究活動の実施状況とその成果」の自己点検・評価について

| 実施<br>時期 | 評価対象 | 評価方法<br>（授業評価、学生調査、学生懇談会等） | 評価結果とそれへの対応（計画を含む） |
|---|---|---|---|
| | 教育課程 | | |
| 2021.4-6 | | 授業評価：授業アンケート（前年度）結果の集計・報告書の作成 | 学生から寄せられたフリーコメントに対する担当教員のコメント・改善計画案の内容を学部教務委員会で検討し、承認した。同資料を運営会議で確認した。次いで同資料を薬学部教員会議で確認した。承認された授業アンケート結果は、ホームページに掲載された。前年度の学生からの授業評価を継続的に授業の改善活動に利用している。 |
| 2021.4-<br>2021.11 | | 東北大学大学院薬学研究科における修業年限短縮による課程修了に関する細則の改正について | 運用中の細則において薬学履修課程に関する修業年限短縮に関する記載がないことが教授懇談会において説明され、細則に明記する方針で進めることで、要件含め検討することとして、ワーキンググループを設置した。ワーキンググループからの薬学履修課程における短縮修了による学位論文審査に関する申し合わせ（案）を教授懇談会等で継続的に議論・確定し、研究科教授会で諮った。 |
| 2021.5 | | 新しく着任する教員が担当する科目等の調整 | 7/1 に着任する教員が 10 月以降で担当する科目・担当内容（SBOs など）について、専攻長と教務委員長を中心に具体的に検討することを教授懇談会で承認し、教務委員会等に諮りながら進めた。 |
| 2021.6 | | 博士論文予備審査の実施方法について | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、博士論文予備審査をオンラインで実施することについて議論し、オンラインでの予備審査を可能とすることとした。また本審査については、原則、対面での実施とするが、状況によってはオンラインを認めることとした。 |
| 2021.7 | | 授業評価：授業アンケート（前期）依頼、集計、授業アンケート結果を担当教員へ送付する。授業アンケート結果をもとに担当教員がコメント・改善計画を作成し教務へ送付 | 学生に対する授業アンケートの項目や実施方法を学部教務委員会で検討し、各科目のグーグルクラスルームに配置した専用のグーグルフォームを用いて実施することを教務係から科目担当教員に依頼した。学生からの回答は教務係が集計し、その結果を各担当教員に送付し、コメント・改善計画の作成を依頼した。担当教員の作成したコメント・改善計画は教務係に期限までに送付され集計された。 |
| 2021.9 | | 後期時間割の提案、確認、作成 | 教務係から提案された後期時間割を各担当教員が確認した後、作成され、学部教務委員会、薬学部教員会議の議を経て定められた。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2021.9 | | 全学科目と専門科目の担当についての検討 | 担当する教員の退職を契機として、全学科目と専門科目の担当に関する問題点の洗い出し、解決策を提案するためのワーキンググループを編成し、検討を開始した。 |
| 2021.10 | | 県外からの非常勤講師の授業形態について | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、県外からの非常勤講師による対面講義を制限していたが、教授懇談会で検討し、BCP レベル１においては対面授業も可能とすることとした。 |
| 2021.11 | | 大学院生への授業及び研究指導の計画を明示するための資料について | 教授懇談会において大学院設置基準第十四条の二「大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。」への対応が検討され、了承した。大学院教務委員会、研究科委員会の議を経て決定した。 |
| 2021.12-<br>2022.1 | | 大学院共通科目への対応 | 教授懇談会において、令和４年度から実施予定の大学院共通科目の情報を共有し、今後の対応を議論した。 |
| 2022.1 | | 授業評価：授業アンケート（前期）依頼、集計、授業アンケート結果を担当教員へ送付する。授業アンケート結果をもとに担当教員がコメント・改善計画を作成し教務へ送付 | 学生に対する授業アンケートの項目や実施方法を学部教務委員会で検討し、各科目のグーグルクラスルームに配置した専用のグーグルフォームを用いて実施することを教務係から科目担当教員に依頼した。学生からの回答は教務係が集計し、その結果を各担当教員に送付し、コメント・改善計画の作成を依頼した。担当教員の作成したコメント・改善計画は教務係に期限までに送付され集計された。 |
| | 学習成果 | | |
| 2021.7 | | 2021 年度創薬科学科４年次英語での研究内容発表会優秀発表賞（学生同士による評価） | 3 年次後期から各専門分野に配属され、課題研究に取り組み中で、自らの研究内容を英語で発表し、質疑・応答する機会を作り、英語の運用能力の醸成に繋げている。なお、薬学科においては、正規科目である「薬学英語」の中で同様の機会を設けている。 |
| 2021.12-<br>2022.1 | | 第４回東北大学の教育に関する卒業・修了者調査（2012, 2016, 2020 年度の卒業・修了生）Google Form によるオンライン調査 | ディプロマポリシーに掲げる４つの要素「教養の涵養」、「専門の修養」、「真理の探究」、「国際感覚の鍛錬」に関する学生の自己評価の結果、アンケート回答時点における専門分野以外の幅広い教養についての自己評価として「ある、あるいは少しある」としたのが 60%ほどであった。これの知識や能力を獲得する上での東北大学における経験の貢献度が「ある、あるいは少しある」としたのは 70%であった。これより「教養の涵養」は卒業・修了生に評価されていると考えられるが、引き続き学習方略 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | を工夫するなど改善点を検討する。一方、「国際感覚の鍛錬」に関連する初修外国語で学んだ言語の運用能力については、80%ほどの卒業・修了生で「あまりない、あるいはない」と回答した。これに対応する東北大学における貢献度も 70%で「あまりない、ない」としていた。学部教育においては、英語によるプレゼンテーション能力の向上に取り組んでいるところであり、優秀発表者を学生自身の投票により選び、学部長から表彰を受ける事業を行っているが、更なる工夫改善を検討することとした。社会人学生から、社会人学生に対する情報提供のあり方について改善要望があった。常に学内で活動する学生との情報格差を感じている。現在は、掲示板中心ではなく、Google Classroom を利用した情報提供に切り替わっているが、更なる工夫を検討したい。 |
| | 施設設備 | | |
| 2021.1 | | ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人人材養成事業（高機能患者シミュテータ）への応募 | 新型コロナウイルス感染症への感染リスクを大幅に減らしながら高度な医療薬学実習を継続するために、運営会議で議論し、文部科学省の補正予算として申請し、令和 4 年度に導入することが決まった。 |
| 2022.3 | | 講義室におけるハイフレックス講義用機器の整備（大講義室・C 棟講義室） | ICT 環境の充実のため、大講義室と C 棟講義室だけで運用している Eduroam 環境を B 棟講義室等でも使用可能とすることを教授懇談会で議論し、進める方針とした。 |
| | 学生支援 | | |
| 2021.4-9 | | 大学院生の転分野について | 教授懇談会において大学院生が様々な理由で研究室に出入りできなくなった場合の現状と対応について情報共有し、学生の不利益とならないよう転分野を含めた対応（規定上は、同じ専攻内であれば分野を変えることは可能であり、その進め方についての了解事項の運用として可能である）を検討することとした。研究科長から「学部・研究科内の転分野に関する了解事項案」が説明され、意見交換の後、了承した。 |
| 2021.4-6 | | 奨学金申請・免除申請等にかかる推薦順位資料の採点基準について | 教授懇談会において、現状と問題点が提起され、具体的に検討するため学生支援委員会で検討することとした。新たな評価方法が提案され、研究科委員会で審議され、運用を開始した。 |
| 2021.5 | | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策（教授懇談会、教務委員会、運営会議） | 薬学部学生においても新型コロナウイルスへの感染が確認されたことから、教授懇談会において、講義中における注意喚起やホームページ等による学生へのメッセージを検討し、実施した。併せて、感染した学生に対するフォロー方法を確認した。 |
| 2021.6 | | 東北大学グローバル萩博士学生奨学金奨学生候補者について | 申し合わせに則して応募者の中から候補者を決定した。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2021.9-<br>2021-10 | | 博士後期課程学生の挑戦的研究支援プロジェクト等について | 教授懇談会において、東北大学高等大学院博士後期課程学生挑戦的研究支援プロジェクトの概要が共有され、選考スケジュールや推薦順位付け方針について検討し、学生支援委員会、研究科教授会の議を経て最終的な推薦者を決定した。 |
| 2022.3 | | 令和４年度の TA および RA の採用について | 教授懇談会において、学生に対する経済的支援の状況について情報共有し、あり方について継続的に検討することとした。学生支援委員会においても検討するとした。 |
| 2022.3 | | 奨学金返還免除の推薦について | 学生支援委員会から現在の順位付けの不具合についての問題提起がなされ、教授懇談会において改めて奨学金返還免除の推薦順位方法を議論した。新たな順位付け方針策定を学生支援委員会で検討することとした。 |
| | 学生受入 | | |
| 2021.4-<br>2021.5 | | 令和 4 年度大学院薬学研究科一般選抜要項での募集分野について | 教授懇談会において、８月実施入試の募集内容について確認し、その後、大学院教務委員会、研究科委員会等で審議・決定した。 |
| 2021.7 | | 薬学研究科概要の掲載内容の見直し | 2021.4 現在の研究科概要の内容を教授懇談会において確認した。 |
| 2021.8 | | 外国人留学生のオンライン入試 | 教授懇談会において、政府の水際対策のため、入国できていない外国人留学生に対してオンラインで実施することを議論し、了承した。 |
| 2021.9 | | 令和 5 年度入学者選抜方針および私費外国人留学生入試の検討 | 令和 5 年度入学者選抜方針および私費外国人留学生入試の内容を教授懇談会において確認した。 |
| | その他 | | |
| 2021.5<br>2021.12 | | 3 ポリシーの内容確認 | 学部教務委員長・創薬科学科長・薬学科長、および大学院教務委員長・分子薬科学専攻長・生命薬科学専攻長・医療薬学専攻長によるワーキンググループ（2020 年度に編成）により３ポリシーの確認を行った。 |

## 7　ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）・スタッフ・ディベロップメント（ＳＤ）の実施状況

| FD･SD の別 | 実施時期 | 名称 | 主催 | 実施内容・方法 | 対象者 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| FD/SD | 2021.6.1 | 研究倫理教育教材の動画配信 | 研究推進コンプライアンス推進室 | これからの研究推進を考える/オンデマンド | 教職員 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| FD/SD | 2021.9.7 | 2021年度後期の授業に向けたオンライン授業環境説明会および ISTU/DC システム説明会 | オンライン教育支援室 | 利用可能なオンライン授業環境について等/オンライン | 教職員 | |
| FD/SD | 2021.11.19 | 令和３年度研究倫理教育FD | 研究推進コンプライアンス推進室 | 教育に関する倫理について・オンライン/オンデマンド | 薬学研究科職員 | |
| FD/SD | 2021.12.1 | ハラスメント防止対策FD | 薬学研究科 | ハラスメントについて動画で学ぶ・オンデマンド＋確認テスト | 薬学研究科職員 | 全員 |
| FD/SD | 2022.1.12 | ISTU／DC 利用について | 薬学研究科 | 新 ISTU について・集合 | 薬学研究科職員 | 全員 |
| FD/SD | 2022.1.21 | 研究倫理に関する FD | 薬学研究科 | 公正な研究活動について／研究データマネジメントについて・オンデマンド＋確認テスト | 薬学研究科職員博士研究員／大学院性 | 全員 |
| FD/SD | 2022.2.2 | 最終年次学生への研究倫理教育 | 薬学研究科 | 科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－/オンデマンド | 薬学研究科学生・院生 | 全員 |
| FD/SD | 2022.3.8 | 令和３年度研究倫理教育FD | 研究推進コンプライアンス推進室 | 科学研究におけるデータ共有について・オンライン/オンデマンド | 教職員 | |

## ８　特に整備（対応）をお願いしたい事項について

| 番号 | 事　　項 | 整備（対応）の有無<br>（該当するものを○で囲んでください。） | 活用（対応）状況<br>（学位便覧に掲載、オリエンテーションで説明等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 「第５回　東北大学の教育と学修成果に関する調査」（令和２年度実施）の自由記述欄への対応 | 有　　無<br>→有の場合、添付してください | 運営会議において、「令和４年度東北大学における教育研究活動等の質保証に関する報告書」として、当該アンケートの自由記述の内容を確認し、対応する委員会等で対応案を検討するよう依頼した。 |
| 2 | 「第 15 回　東北大学学生生活調査」（令和３年度実施）の自由記述欄への対応 | 有　　無<br>→有の場合、添付してください | 運営会議において、「令和４年度東北大学における教育研究活動等の質保証に関する報告書」として、当該アンケートの自由記述の内容を確認し、対応する委員会等で対応案を検討するよう依頼した。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | 「第４回　東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」（令和３年度実施）の自由記述欄への対応 | 有　　無<br><br>→有の場合、添付してください | 社会人学生から、社会人学生に対する情報提供のあり方について改善要望があった「社会人学生に対する情報提供については改善の余地があると思う。（学内に在籍していれば容易く知り得る情報も学外では得にくい、あるいは知らないまま済んでしまっている場合も有る）」。常に学内で活動する学生との情報格差を感じている。現在は、掲示板中心ではなく、Google Classroom を利用した情報提供に切り替わっているが、更なる工夫を検討したい。 |
| 4 | 単位の実質化に向けた取組状況（１）授業科目レベル | 令和３年度に、令和３年度（もしくは令和２年度）に開講した授業科目について、授業科目ごとの授業時間外学修時間を教務委員会等で確認していますか。<br><br>確認している　　確認していない<br><br>→確認している場合、状況を記載してください。 | 2017 年のから各科目のシラバスに「授業時間外学習」欄を設け、入力を必須化している。授業時間外学修時間については、授業評価アンケートをからまとめ、大学院教務委員会、研究科委員会において確認している。 |
| 5 | 単位の実質化に向けた取組状況（２）教育課程レベル | 令和３年度に、令和３年度（もしくは令和２年度）の学士課程各学年の平均履修登録単位数を教務委員会等で確認していますか。<br><br>確認している　　確認していない<br><br>→確認している場合、状況を記載してください。 | |
| 6 | シラバス作成状況のチェック体制 | 有　　無<br><br>→有の場合、添付してください | シラバスの最終原稿を研究科教務委員会で点検・承認された後、研究科委員会に点検結果を報告する体制としている。<br>※研究科教務委員会議事メモ<br>※研究科委員会議事要録（R04.3.16） |
| 7 | 成績評価の分布状況の組織的確認状況 | 有　　無<br><br>→有の場合、添付してください | 大学院生の成績分布については、３月の研究科教務委員会で確認する体制としている。<br>※研究科教務委員会議事メモ<br>※【資料 2】令和３年度大学院生の成績分布について |

# 薬学研究科委員会（第１１回）議事要録

日　時　令和４年　３月１６日（水）[redacted]
場　所 [redacted]
出席者 [redacted]
欠席者 [redacted]

議　事

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

１　シラバス２０２２（授業計画）について

倉田研究科教務委員会委員長から、配付資料７に基づき、２０２２年度の大学院のシラバスについて、研究科教務委員会で点検し、特に内容に不備等はなかった旨を報告があった。

[redacted]

令和３年度研究科教務委員会議事メモ

日　時　　令和４年３月４日（金）～３月８日（火）
場　所　　[redacted]
出席者　　[redacted]

議　事

[redacted]

１．令和４年度大学院のシラバス（授業計画）について
資料１－１、１－２に基づき、各授業担当者が作成したシラバスを点検した。

２．令和３年度大学院開講科目の成績分布表について
資料２に基づき、令和３年度大学院開講科目の成績分布表について報告があり、各科目について確認した。

[redacted]
[redacted]

[redacted]

令和３年度大学院生の成績分布について

博士課程前期2年の課程

| 科目名（名称） | 単位数 | AA（%） | A(%) | B(%) | C(%) | （D%） | 受講者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 課題研究 | [redacted] | | | | | | |
| 生命薬科学特論Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 生命薬科学特論Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 分子薬科学特論Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 分子薬科学特論Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 応用医療薬学特論 | [redacted] | | | | | | |
| 応用生化学特論Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 応用生化学特論Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 生物化学特論 | [redacted] | | | | | | |
| 生命薬科学セミナーⅠ | [redacted] | | | | | | |
| 生命薬科学セミナーⅡ | [redacted] | | | | | | |
| 分子解析学特論 | [redacted] | | | | | | |
| 分子薬科学セミナーⅠ | [redacted] | | | | | | |
| 分子薬科学セミナーⅡ | [redacted] | | | | | | |
| 免疫科学特論 | [redacted] | | | | | | |
| 薬効学特論 | [redacted] | | | | | | |
| 医薬品化学特論 | [redacted] | | | | | | |
| 食と農免疫特論 | [redacted] | | | | | | |
| 有機化学特論 | [redacted] | | | | | | |
| 有機化学特論Ａ | [redacted] | | | | | | |
| 有機化学特論Ｂ | [redacted] | | | | | | |
| 医用オミクス特論 | [redacted] | | | | | | |
| 総計(%) | [redacted] | | | | | | |

博士課程後期3年の課程

| 科目名（名称） | 単位数 | AA（%） | A(%) | B(%) | C(%) | （D%） | 受講者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生命薬科学特別研究 | [redacted] | | | | | | |
| 分子薬科学特別研究 | [redacted] | | | | | | |
| 遺伝子制御薬学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 医薬資源化学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 医薬製造化学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 医薬製造化学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 衛生化学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 衛生化学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 合成制御化学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 合成制御化学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 生命機能解析学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 生命機能解析学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 生命薬科学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 生命薬科学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 反応制御化学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 分子細胞生化学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 分子細胞生化学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 分子設計化学特別演習Ⅰ | [redacted] | | | | | | |
| 分子設計化学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 分子変換化学特別演習Ⅱ | [redacted] | | | | | | |
| 総計(%) | [redacted] | | | | | | |

薬学履修課程

| 科目名（名称） | 単位数 | AA（%） | A(%) | B(%) | C(%) | （D%） | 受講者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 医療薬学特別研究 | [redacted] | | | | | | |
| 医療薬学特別演習 I | [redacted] | | | | | | |
| 医療薬学特別演習 II | [redacted] | | | | | | |
| 生活習慣病治療薬学特別演習 II | [redacted] | | | | | | |
| ローテーション実習 I | [redacted] | | | | | | |
| 医療薬学特別講義 II | [redacted] | | | | | | |
| 病態解析学演習 | [redacted] | | | | | | |
| 有機化学特論 | [redacted] | | | | | | |
| 総計(%) | [redacted] | | | | | | |